

私がやるべきこと

岩本 佳純((一財)化学及血清療法研究所)

これまで何人もの先生方のニュースレター「計量生物学の未来に向けて」を拝見してきましたが、まさか私が執筆する日が来るとは夢にも思いませんでした。

私は昨年 3 月に久留米大学修士課程を修了し、4 月より化学及血清療法研究所(化血研)に勤務しています。久留米大学ではバイオ統計学を専攻し、柳川堯教授にご指導いただきました。大学では、統計数理の基礎、臨床試験の基礎、研究デザイン、生存時間解析、バイオインフォマティクスなど幅広い分野の講義を受講し、さらには統計解析ソフトの SAS や JMP, R のプログラミングについても学びました。研究面では、週に 1~2 回、柳川先生が研究打ち合わせの時間を取ってくださり、何時間も私の研究の話に付き合ってくださいました。学生の私の話に先生が何時間も時間を割いてくださっていたことには、感謝の言葉しかありません。久留米大学バイオ統計センターは、他にも統計学者と呼ばれる先生方が何名もいらっしゃる非常に珍しいセンターです。どの先生も講義の内容が分からないといった基礎的な質問から研究の相談まで、いつでもどんなことでも応じてくださいました。今になって考えると、非常に恵まれた環境で過ごしていたと思います。そんな恵まれた環境のおかげで論文「Is the second independent diagnostic test in medical diagnosis useful?」を日本計量生物学会誌から出版することができ、日本計量生物学会奨励賞を頂くことが出来ました。

実際に企業で開発の統計解析業務に携わり始めてから、大学院で学んだ統計学の知識をそのまま活かせる場面が多くありました。一方で、大学院で習ったのに忘れてしまっていることもあり、もっと身を入れて勉強しておけばよかったと後悔と反省を繰り返しています。学生の頃に「こんなに勉強できるのは今だけだから、しっかり勉強しておいた方がいいよ。後で本当に後悔するから」と言われたことがありました。当時はそれほど重く受け止めていませんでしたが、今頃になってこの言葉の意味を痛感しています。この知識の抜け落ちを解消し、企業の統計家として実務を行う上で必要な知識を習得するために外部セミナーに参加する機会をいただいているのですが、そこで他の製薬企業や CRO の統計家の方々と一緒に講義を受けて、これまでの私の理解がいかに浅かったかということを感じています。また、他部署に配属になった同期から業務に関連する統計の基本的な質問を受けることがあります。基礎的なことですらすぐには答えられません。大学院で統計を専門的に学んでいたというだけで、統計が専門ではない人からはプロの統計家のように思われてしまいます。基礎的なことですらすぐに答えられない状態ですから、「プロの統計家」として扱われることに不安しか感じられません。そんな私ですので、「計量生物学の未来に向けて」を考えるのではなく、まずは知識を習得し、経験を積み、プロの統計家として企業活動に貢献できるよう努力を怠らないことが私の最優先課題であることは言うまでもありません。

とは申しても、ニュースレターのテーマもありますので、未熟な私なりに計量生物学の未来のためにできることについて考えたいと思います。これまで執筆された先生方とは志向も規模も大きく異なるかと思いますが、ご容赦いただければ幸いです。計量生物学の未来のために微力ながら私ができることは、業務上生じた統計的課題を学会発表や論文執筆を通じて外部に発信していくことではないかと思っています。私たちが取り組んでいる主な分野はワクチンや血漿分画製剤であり、中にはオーファンドラッグに該当する薬剤もあります。この分野に取り組んでいる企業はそれほど多くないため、私どもならではの他にはない統計的課題があるように思います。これらの課題を学

会発表や論文執筆をとおして外部に発信し、日本計量生物学会会員の皆様方と共有し、さらに深め発展させて行けば、世界に誇れる日本独自の研究分野を開くことができるのではないかと考えています。

九州に拠点を置く私にとって、統計家の皆様と交流できる機会はそれほど多くなく、情報発信できる機会は大変貴重です。こうしてニュースレターを書かせていただくことが、計量生物学の未来のための情報発信の第一歩だと考えています。このような機会をいただき、ありがとうございました。今後、学会発表等でより広く情報発信していくために、まずはプロの統計家として一人前になれるよう、業務に取り組むだけでなく統計学の理解を深める努力を続けていく所存です。ご指導のほど、よろしく願いいたします。